

企業行動憲章第⑧条

海外においては、その文化や慣習を尊重し、現地の発展に貢献するよう努めます。

中国での人材育成



「ものづくりの伝承が、モチベーション向上、仕事への誇りにつながる」

広州務冠電子有限公司 董事長 中山 嘉孝

時計学校開設

広州務冠電子(MCLG)では風土改革・人材育成を重点課題として掲げており、その一環として、時計学校を開催し、技能の向上に取り組んでいます。

時計学校は、各部門より選抜された計24名の現地従業員が、月1回、時計組み立て技能・技術(理論含む)を学び、時計のプロとなることをめざす場として、2011年にスタートしました。時計学校を通じて、学ぶ意欲のある従業員へその環境を提供し、ものづくりの楽しさ、難しさを経験し、自らのモチベーションを高め、仕事に誇りをもてるような人材を育成することを目的としています。

また、自己啓発の一環として「3Mアカデミー」を併設し日本語・中国語を勉強し合い、お互いのコミュニケーション能力の強化に努めています。目標をもって取り組むことで、技能面だけでなく意識の改善にもつながり、3Mグループ(シチズン時計ミヨタ・MCLG・妙高プレジジョン)の基本方針である「人と現場を大切に！いい会社・夢・実現」を実践しています。

今後は卒業生に講師を任せ、現地スタッフだけで運営できるようにしていきたいと思っていますし、必ず実現できると確信しています。

従業員の意識改革

—— 西鉄城光電器件(蘇州)有限公司(CDLS)

中国の方は新しい環境を求めることにより、ステップアップしていくと考える方もいて、日本に比べ離職率も高く、技術の蓄積をしていくことが課題となっていました。この状況を打破するために、2011年度は大掛かりな風土改革に取り組む、従業員の意識改革とレベルアップに努めました。

従業員教育に関しては、品質、安全衛生、5Sなどに取り組み、また、監督者のレベル向上を図るため、外部講師を招くなどして、監督者教育、仕事の進め方・教え方・管理方法などの教育を実施しました。

また、コミュニケーションをとることも重要な手段と考え、懇談会や部門別交流会などを通じ、コミュニケーションづくりをしています。



CDLS総経理 三石 孝志

企業行動憲章第⑨条

グループ各社の経営トップは、本憲章の実現が自らの役割であることを認識し、率先垂範の上、社内に徹底するとともに、関連企業や取引先に周知します。

また、社内外の声を常時把握し、実効ある社内体制の整備を行うとともに、企業倫理の徹底を図ります。

コーポレートガバナンス

基本的な考え方

シチズングループは「市民に愛され市民に貢献する」を企業理念に、地域社会はもとより、地球環境と調和した持続的な企業活動を通して企業価値を向上し、社会に貢献していくことをめざしています。この企業目的を継続的に追求していくために、経営の透明性確保と多面的な経営への監視機能が重要であると認識し、コーポレートガバナンスの強化に取り組んでいます。

純粋持ち株会社と事業会社の役割

シチズングループは、シチズンホールディングスと各事業統括会社の責任と権限を明確化しています。シチズンホールディングスは、グループ経営の全体最適の観点から経営戦略の策定と経営資源の有効活用などによって、企業価値を向上する役割を担っています。一方、それぞれの事業統括会社は業界特性を踏まえた自立的運営を行い、経営のスピードアップ、収益力強化を図っています。

取締役会・監査役会の役割

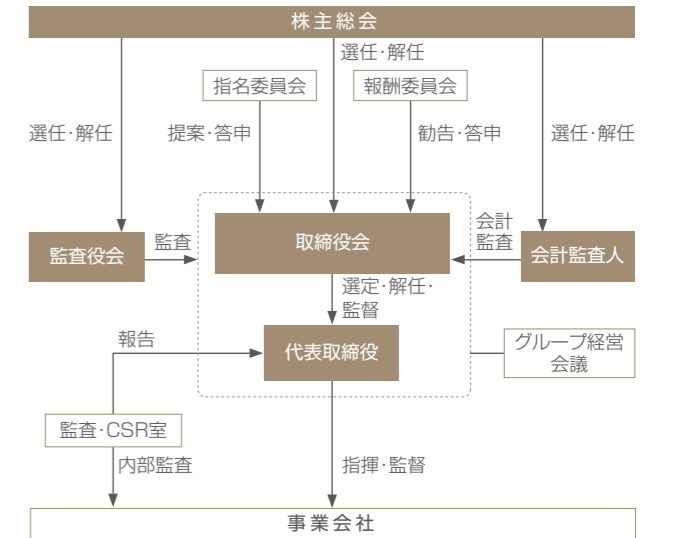
シチズンホールディングスの取締役会は、社外取締役2名(独立役員として東京証券取引所に届出)を含む9名で構成されています。(2012年3月31日現在)取締役会は、シチズンホールディングスならびにグループの経営方針やその他の重要事項を決定するとともに、取締役の職務の執行を監督しています。

また監査役会は、社外監査役2名を含む3名で構成されています。(2012年3月31日現在)各監査役は、重要書類などの閲覧、業務および財産状況の調査、取締役会などの

各会議体への出席を通じて、取締役会の職務執行全般のチェックをするほか、内部統制システムの整備運営状況を監査しています。

またアドバイザリーボードとして、社外取締役と社長で構成する指名委員会ならびに報酬委員会を設置しています。

シチズンホールディングス コーポレートガバナンス体制



内部統制

シチズンホールディングスでは「内部統制システム構築の基本方針」を定め、内部統制システムのさらなる充実に向けた取り組みを行っています。内部統制システムが適切かつ有効に機能し、財務報告の信頼性が確保できるように、グループ連結会社の担当者による「J-SOX内部統制連絡会」を開催し、外部監査機関とも連携を図り、内部統制システムのより一層の整備・運用・評価を進めています。

社外取締役より

内向きの経営風土や、経営陣の倫理観の喪失に起因する不祥事が後を絶たない昨今、情報の積極的な開示はもとより、外部からの評価に委ねる仕組みを構築することが重要となっています。シチズングループには素晴らしい企業理念があり、その実現に向けてグループ全体で取り組むことが信頼される経営につながるのだと思います。当社のコーポレートガバナンス体制は、事業の執行権限と責任を明確にする一方、監督機能の強化を強めており、経営の迅速性・信頼性を高め、グループ間の競争を促し、グループ全体を高収益構造に再構築するのに適しています。私は社外取締役として、常に外部からの視点で経営全般に関する提言や意見を具申し、シチズングループの企業価値向上に努めたいと思います。

シチズンホールディングス 社外取締役 山本 一元

